

北陸新幹線新高岡駅の現状 飯田市議会リニア推進特別委員会視察報告書を読む

去る12月16日、飯田市議会リニア推進特別委員会において、委員会が先に実施した視察の報告書が示されました。

今回は、その中の北陸新幹線新高岡駅および新設乗り継ぎ駅の視察に注目し、視察概要をみることにします。当課も新高岡駅には開業前と開業後に訪れ、同駅地域の推移に注目しているところです。



北陸新幹線新高岡駅と城端線新高岡駅（円内）
（リニア対策課撮影）

1. リニア長野県駅予定地との共通点に注目

高岡市は人口170千人（平成29年10月）、駅勢圏とみられる富山県呉西地域自治体（高岡・射水・氷見・砺波・小矢部・南砺市）で436千人（同）となります。同委員会が本駅を視察先に選定したのは、①在来線駅（中心市街地）と離れた（約1.5km）場所に新幹線駅が設置、②乗り継ぎ新駅をJR城端線と新幹線との交差地に請願駅として設置、③駅周辺整備面積が6.3ha、とリニア長野県駅の状況と大変似通っていることに着目したものです。

新高岡駅は、当初高岡市はじめ関係団体により在来線駅併設運動が展開されたものの、フル規格新幹線設置へ傾く中で分離駅を受け入れた経緯があるとのことで、視察に参加した委員からは「全体的によく考えられた駅周辺整備がされた」、「飯田市と似ていることを感じて帰った」などの意見が寄せられています。反面、「（都市計画の）狭いゾーニング設定のため、投資や事業展開が分散されるのではないかと懸念」、「本市（飯田市）においては中心拠点、広域交通拠点とした設定を堅持し、駅周辺及び駅周辺外周の開発は官民挙げてまちづくりの観点から監視していく必要がある」との見方がありました。

2. 駅利用者数は堅調な伸び

新高岡駅の利用者（乗降者）数は、当初7,000人/日とも想定されていたようですが、平成30年3月調査（新幹線まちづくり推進高岡市民会議）では、1日平均が4,831人（平成29年調査は4,746人）となっています。曜日別では日曜日が6,050人、土曜日で5,395人、平日（木曜日を調査）で4,474人です。委員からは、乗降客データに対して新高岡駅の「人通りはまばらだった印象」。ただ、駅周辺は「『閑散とした』印象はなかった」とのことでした。

高岡市は新高岡駅での利用者数増強を図るための施策（修学旅行・校外活動等の利用促進、団体旅行誘致促進事業、定期券購入補助事業等）を実施しており、速達タイプ「かがやき」の新高岡駅停車実現を最終目標としていますが、これまで臨時列車の扱いながら1日上下各1本停車していたのが、昨年ダイヤ改正があり、時刻表によると上りは土曜日の7時台、下りは平日（「運転日注意」＝特定日の運転）22時台の各1本の停車となってしまいました。

3. 駐車場と乗り継ぎ新駅は…

新高岡駅の駐車場は「840台のキャパシティ」があるものの、「平日にも関わらずほぼ満車」、「駐車場は混んでいる」と、各委員共通に必要な規模との受け止めと読みました。また、「(長野県駅の) 駐車場台数の規模を計る上で一つの参考となった」との意見がありました。

ただ、前出の新幹線まちづくり推進高岡市民会議による「新高岡駅利用実態調査および課題等検討業務報告書」によると、来訪者の駐車場に対する意見では「立体駐車場が狭い」、「駐車台数が少ない」、「駐車場の拡張を」など駐車場の規模は十分ではない、という状況も窺えます。乗り継ぎ駅の利用については、「高校生のイオンモールへ通行利用で活用」、「新駅はイオンモールへの利用者が乗降客の多くだと知り驚いた」など、複数の委員の感想から、市側がそのような認識にあることが読み取れます。

イオンモールについては、駅整備地域の南側へも隣接して拡張する計画が伝えられているとのことで、まちづくりの観点から論議を呼ぶことになりそうです。



新高岡駅整備地区に隣接したショッピングモール
(リニア対策課撮影)

4. 駅周辺の景観については意見が

新高岡駅開業時にはなかったホテルが視察時に見られたことについて、委員からは「景観上残念と感じた」、「景観上マイナス」、「目の前に高層階のホテルができてしまうと全体の調和が乱れてしまうことを実感」と、委員には概ね不評でした。

飯田市は、11月から12月にかけて上郷・座光寺地区で開催した住民説明会において両地区の地区計画と特定用途制限地域について説明があり、両地区の商工業エリアで15m、沿道エリア(上郷地区)および調和エリア(座光寺地区)で12m、住居エリアは上郷地区12m、座光寺地区10mのそれぞれ高さ制限を設けるなど、一定の制限をかけることとしています。



新高岡駅前で開催したホテル(同)



新高岡駅前開業時からあるカフェ
(同)

5. 財政面について注目が

駅整備関係費は、「高岡駅・新高岡駅の整備で370億円」、「2百数十億の投資」、「250億円の起債」などとの情報でしたが、現状同市は「5年間で40億円の財源捻出(歳出カット)」など厳しい財政運用を強いられている模様です。ただ、これは新幹線駅整備によるものだけではない、との指摘もあるとのことです。

これについて井坪隆リニア推進特別委員会委員長は、「当日の説明で、新幹線駅整備に係る事業費総額や内訳、その財源手当てなどの資料は示されていなかった。議会として今後リニア駅整備に対応していくため、高岡市より情報提供をいただいて検討し、他山の石としていきたい」とのことです。

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)